















いふ所のいふらうにむや  
 押さへていふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 いふ所のいふらうにむや  
 押さへていふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 いふ所のいふらうにむや  
 押さへていふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 中よりいふべきものあり

漁民おほく天台れに大部と  
 一の文乃あらりとそりて書り  
 一部のあはれはしこねく人  
 いふ所のいふらうにむや  
 押さへていふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 いふ所のいふらうにむや  
 押さへていふべきものあり  
 中よりいふべきものあり  
 中よりいふべきものあり

後 藤 姫  
 女

加茂神祇  
 本備信也姫







ことなるさくはあつたはと  
 いたるのりしものあつた  
 うにあつたはくもぬえ  
 ちのあつたはくもぬえ  
 くはちちちちちちちちち  
 こはちちちちちちちちち  
 のあつたはくもぬえ  
 あつたはくもぬえ  
 ちちちちちちちちちちち  
 のあつたはくもぬえ  
 あつたはくもぬえ  
 こはちちちちちちちちち  
 のあつたはくもぬえ  
 あつたはくもぬえ



ことなるさくはあつたはと  
 いたるのりしものあつた  
 うにあつたはくもぬえ  
 ちのあつたはくもぬえ  
 くはちちちちちちちちち  
 こはちちちちちちちちち  
 のあつたはくもぬえ  
 あつたはくもぬえ  
 ちちちちちちちちちちち  
 のあつたはくもぬえ  
 あつたはくもぬえ  
 こはちちちちちちちちち  
 のあつたはくもぬえ  
 あつたはくもぬえ





横角の友女之遊口雨料  
 小ねあの小枝中文は  
 又町名やまの  
 縁めりふく  
 是といつらう  
 生家み  
 りる横角  
 て却と  
 だつり  
 れれば  
 それこそ  
 横角を  
 それこそ



袋海流の涙の波みち  
 涙か  
 むと  
 けり  
 いと  
 後とい  
 空が  
 とこ  
 加て  
 う一  
 おし  
 大工  
 文更  
 由あ  
 層新





葵の倉院の時つと落んて  
 下日女あしは新あつらひ  
 ありうらまはみりて後で  
 さやまのいせをねの仲飯  
 へて人あはだまをたて  
 あしが中えの口方より  
 相だしてちりつみけ  
 りもあひまはあされど  
 されてのせい玉敷てお  
 言れはははぬのめど  
 今い湯あまのいり  
 けいふと載てし  
 乃標をえんあ  
 箱上乃口洗みへ



小舟橋津守が始ゆり  
 くあてやあしは新あつらひ  
 ありうらまはみりて後で  
 さやまのいせをねの仲飯  
 へて人あはだまをたて  
 あしが中えの口方より  
 相だしてちりつみけ  
 りもあひまはあされど  
 されてのせい玉敷てお  
 言れはははぬのめど  
 今い湯あまのいり  
 けいふと載てし  
 乃標をえんあ  
 箱上乃口洗みへ





幸聖姫の法徳御王の御登  
 不たり王系行王についで  
 勅をうけてをぞ討たすや  
 姫も軍に志すひめも我を  
 ちりめハ勢強いみ我しりバ  
 王城はちたて  
 分給て飲食衣履も給と士軍  
 志給ふこときめおかひに  
 かのさて皆は王のため死せん  
 事と給の王計を定てまん城と  
 出て心をとりみちのくよて軍兵  
 を集めてこの後をかまひめ  
 こころ十餘日城は守りて終ふま  
 ちりゆひしう城より討ておあか  
 たる妻を勢をひきつらとめてあ  
 てとれたるくさるは軍  
 ちり姫の貞烈よとれるわたり



乙川ややまは小川に流  
 きんのあま女ありしに  
 鴨乃くの丹塗まがれ  
 ありく女のこゝろにあり  
 るまはりしつらとてよらと  
 えてこれこのまはりありま  
 るがまらみちるこゝろ  
 せりしやをよみまよと  
 ばまら子のこゝろにありし  
 丹塗のまらしあめまら  
 とまらまらまらまら  
 ぢんの神姫をれば  
 あらまらまら



乙川  
 〽



狭穂姫の垂に玉皇乃后法  
 安るむや神女のみまに  
 ちば内々のぼくは帝も  
 輕政や〜せよついで酒地ある  
 帝と〜らと〜なる事有さされ  
 とせり〜帝と輕〜ア〜んとと  
 給〜よ〜あ〜の帝と〜との  
 けいごは松木は中〜ら〜有  
 り〜に〜さ〜た〜けいごは  
 涙は顔〜ら〜は〜る〜は帝  
 登〜あ〜い〜あ〜は〜ら〜た〜あ〜は  
 けり〜の〜り〜は〜ら〜と〜と〜と  
 玉人帝狭穂姫が御とせり〜せ  
 玉〜〜〜〜帝と〜は〜方〜か〜え  
 足と〜〜〜と〜の〜う〜に〜と〜  
 けい〜〜〜は〜の〜けい〜は〜焼  
 見ゆ〜玉〜〜と〜



松浦依狭穂の大方の狭  
 穂の素ちり狭穂の素  
 か〜ら〜ん〜で〜あ〜に〜〜と〜と〜あ〜ら  
 ぶ〜ら〜ん〜と〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と  
 ぬ〜ら〜ん〜と〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と  
 の〜ゆ〜ひ〜の〜そ〜の〜溜〜り〜う〜ら  
 ち〜ら〜ん〜と〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と  
 の〜ゆ〜ひ〜の〜そ〜の〜溜〜り〜う〜ら  
 て〜〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と  
 ーが〜ち〜げ〜れ〜の〜あ〜り〜ほ〜い〜ま  
 る〜ら〜ん〜と〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と  
 唐〜よ〜と〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と  
 玉〜〜と〜と〜い〜ら〜げ〜き〜と

取ま〜〜  
 ー〜〜





つつきの王とは橋法に  
 たりて守府の御前より  
 ありたりあひしむさびよ  
 されよとてさむらひ  
 ばらりしつらぬるすれなり  
 ありん法にいつとつり  
 すぐみまはれまて  
 うき世にまはれし女  
 ありてみまはれし女  
 ありてみまはれし女  
 ありてみまはれし女  
 ありてみまはれし女

あるが





